

2021年11月1日

2022年3月期上期 決算説明会

取締役 執行役員常務
青木 昭一

(注)2022年3月期より事業セグメント区分を変更しています。この変更に伴い、2021年3月期の事業セグメントの経営成績についても同様の区分に組み替えて表示しています。

1. 2022年3月期上期 決算概要

2022年3月期上期 決算概要

(単位：百万円)

	2021年3月期上期		2022年3月期上期		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
売上高	696,037	100.0%	876,337	100.0%	180,300	25.9%
営業利益	24,065	3.5%	75,679	8.6%	51,614	214.5%
税引前利益	48,249	6.9%	99,351	11.3%	51,102	105.9%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	34,360	4.9%	73,219	8.4%	38,859	113.1%
設備投資額	57,067	8.2%	67,367	7.7%	10,300	18.0%
有形固定資産 減価償却費	35,031	5.0%	42,061	4.8%	7,030	20.1%
研究開発費	35,126	5.0%	40,359	4.6%	5,233	14.9%
平均為替レート	ドル	107円	110円			
	ユーロ	121円	131円			

(ご参考) 2022年3月期上期 為替変動による影響額 (前年同期比) : 売上高 約+260億円
 税引前利益 約+90億円

売上高は上期として過去最高を更新、増収に伴い税引前利益率は2桁へ向上

2022年3月期上期 事業セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2021年3月期上期		2022年3月期上期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
コアコンポーネント	196,318	28.2%	246,984	28.2%	50,666	25.8%
産業・車載用部品	62,399	9.0%	83,378	9.5%	20,979	33.6%
半導体関連部品	122,509	17.6%	150,739	17.2%	28,230	23.0%
その他	11,410	1.6%	12,867	1.5%	1,457	12.8%
電子部品	124,980	18.0%	163,300	18.6%	38,320	30.7%
ソリューション	378,196	54.3%	467,520	53.3%	89,324	23.6%
機械工具	90,770	13.0%	121,434	13.9%	30,664	33.8%
ドキュメントソリューション	138,140	19.9%	175,248	20.0%	37,108	26.9%
コミュニケーション	107,462	15.4%	120,538	13.7%	13,076	12.2%
その他	41,824	6.0%	50,300	5.7%	8,476	20.3%
その他の事業	7,937	1.1%	12,912	1.5%	4,975	62.7%
調整及び消去	-11,394	-1.6%	-14,379	-1.6%	-2,985	—
売上高	696,037	100.0%	876,337	100.0%	180,300	25.9%

2022年3月期上期 事業セグメント別利益

(単位：百万円)

	2021年3月期上期		2022年3月期上期		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
コアコンポーネント	10,844	5.5%	28,058	11.4%	17,214	158.7%
産業・車載用部品	107	0.2%	9,595	11.5%	9,488	—
半導体関連部品	12,103	9.9%	19,543	13.0%	7,440	61.5%
その他	-1,366	—	-1,080	—	286	—
電子部品	8,523	6.8%	26,091	16.0%	17,568	206.1%
ソリューション	8,747	2.3%	36,014	7.7%	27,267	311.7%
機械工具	6,110	6.7%	14,688	12.1%	8,578	140.4%
ドキュメントソリューション	6,050	4.4%	15,753	9.0%	9,703	160.4%
コミュニケーション	3,910	3.6%	7,531	6.2%	3,621	92.6%
その他	-7,323	—	-1,958	—	5,365	—
その他の事業	-1,276	—	-7,181	—	-5,905	—
事業利益 計	26,838	3.9%	82,982	9.5%	56,144	209.2%
本社部門損益等	21,411	—	16,369	—	-5,042	-23.5%
税引前利益	48,249	6.9%	99,351	11.3%	51,102	105.9%

2022年3月期上期 業績サマリー

全セグメントでコロナ禍以前の水準を超える売上・利益率へ改善

1. 新型コロナウイルス感染症の影響緩和

- 主に自動車関連市場、ドキュメント市場の需要が前期上期から回復

2. 半導体・5G関連部品の需要増加

- 積極的な増産による収益貢献

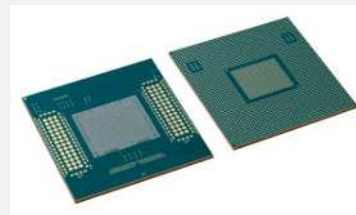
半導体製造装置用
ファインセラミック部品



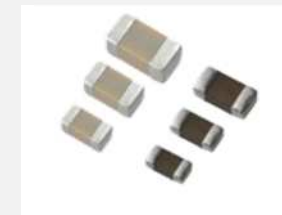
セラミックパッケージ



有機パッケージ



セラミックコンデンサ



水晶部品

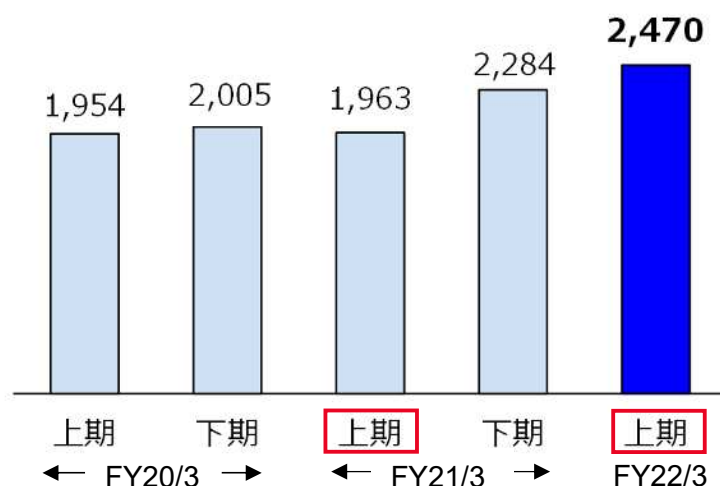


2022年3月期上期：事業セグメント別半期業績推移

(1) コアコンポーネント

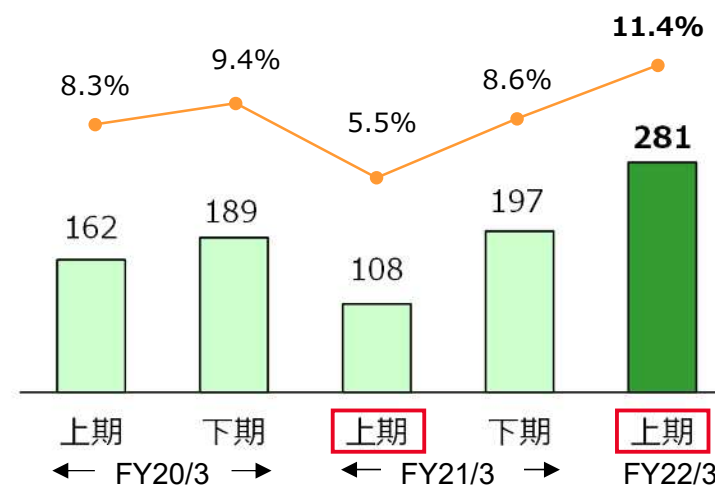
売上高

(単位：億円)



事業利益

● 事業利益率 (単位：億円)



主な増減要因

<FY22/3 上期 vs FY21/3 上期>

- ▶ 産業・車載用部品事業において、半導体製造装置用ファインセラミック部品及び車載カメラの需要増
- ▶ 半導体関連部品事業における、5Gや自動車関連市場向けセラミックパッケージ及び有機基板の需要増

<FY22/3 上期 vs FY21/3 上期>

- ▶ 増収により増益となり、利益率は2桁へ改善

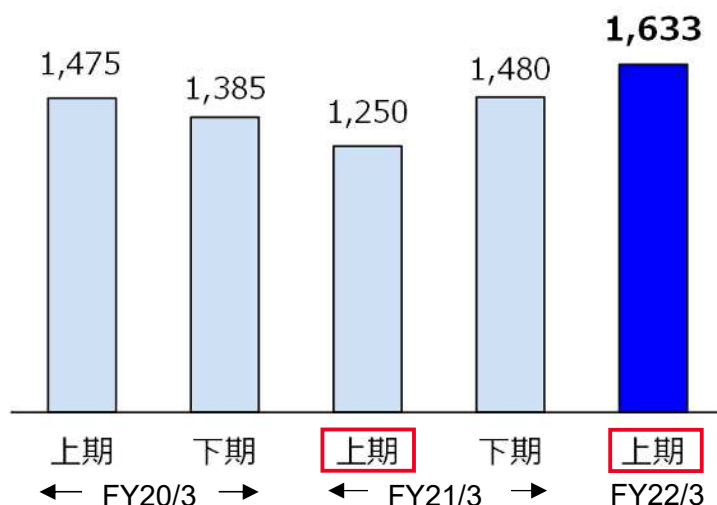
注：事業利益は各事業セグメントの税引前利益
事業利益率は百万円単位で算出

2022年3月期上期：事業セグメント別半期業績推移

(2) 電子部品

売上高

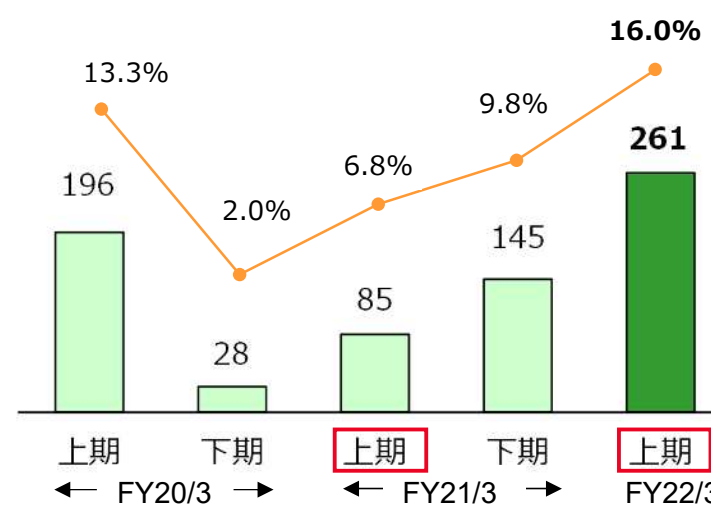
(単位：億円)



事業利益

● 事業利益率

(単位：億円)



主な増減要因

<FY22/3 上期 vs FY21/3 上期>

- 自動車関連市場や産業市場の回復に加え、5G及び半導体関連市場での需要増による売上増

<FY22/3 上期 vs FY21/3 上期>

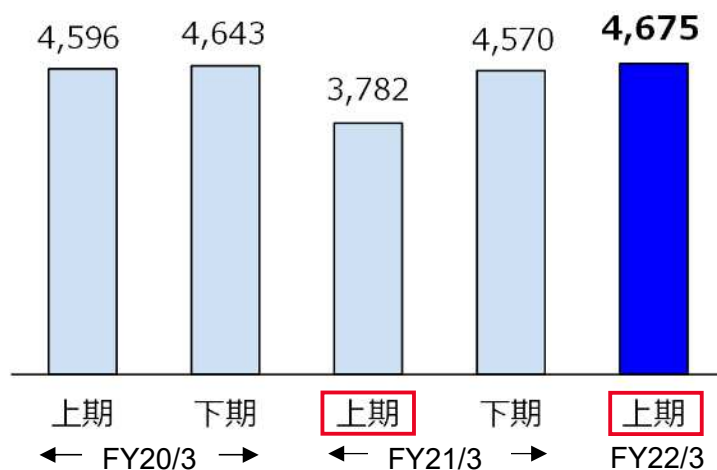
- 増収に加え、小型の高容量コンデンサや水晶部品など、高付加価値製品の需要増及び原価低減により増益
- 利益率は2桁へ改善

注：事業利益は各事業セグメントの税引前利益
事業利益率は百万円単位で算出

2022年3月期上期：事業セグメント別半期業績推移 (3) ソリューション

売上高

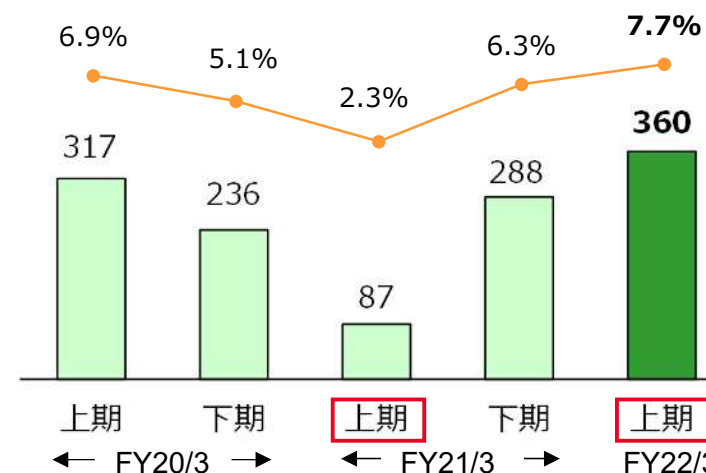
(単位：億円)



事業利益

● 事業利益率

(単位：億円)



主な増減要因

<FY22/3 上期 vs FY21/3 上期>

- 機械工具事業において、自動車関連市場や建築・住宅市場向けに売上が増加
- ドキュメントソリューション事業において、欧米を中心にプリンターや複合機の需要が回復

<FY22/3 上期 vs FY21/3 上期>

- 増収及び生産性の向上等により増益

注：事業利益は各事業セグメントの税引前利益
事業利益率は百万円単位で算出

2. 2022年3月期通期 業績予想

2022年3月期通期 業績予想

(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期				増減金額 (増減率)	
			前回予想(4月公表)		今回予想			
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	売上高比	対 前期	対 前回予想
売上高	1,526,897	100.0%	1,730,000	100.0%	1,750,000	100.0%	223,103 (+14.6%)	20,000 (+1.2%)
営業利益	70,644	4.6%	117,000	6.8%	146,000	8.3%	75,356 (+106.7%)	29,000 (+24.8%)
税引前利益	117,559	7.7%	160,000	9.2%	190,000	10.9%	72,441 (+61.6%)	30,000 (+18.8%)
親会社の所有者に帰属する 当期利益	90,214	5.9%	113,000	6.5%	139,000	7.9%	48,786 (+54.1%)	26,000 (+23.0%)
基本的EPS (円)	248.91	-	311.78	-	383.51	-	-	-
設備投資額	117,106	7.7%	170,000	9.8%	170,000	9.7%		
有形固定資産 減価償却費	73,811	4.8%	100,000	5.8%	100,000	5.7%		
研究開発費	75,457	4.9%	90,000	5.2%	90,000	5.1%		
平均為替レート	ドル	106円	105円		110円			
	ユーロ	124円	125円		130円			

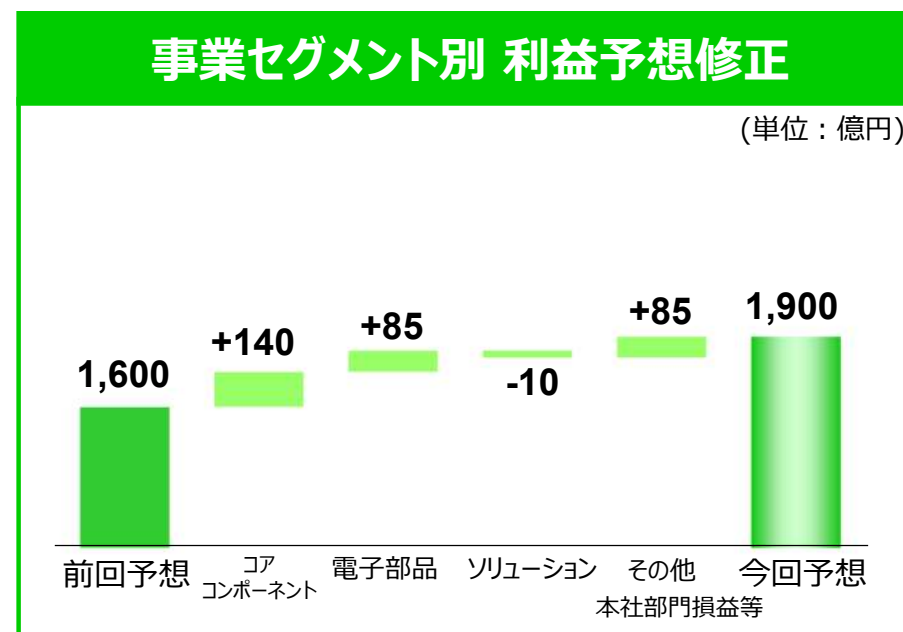
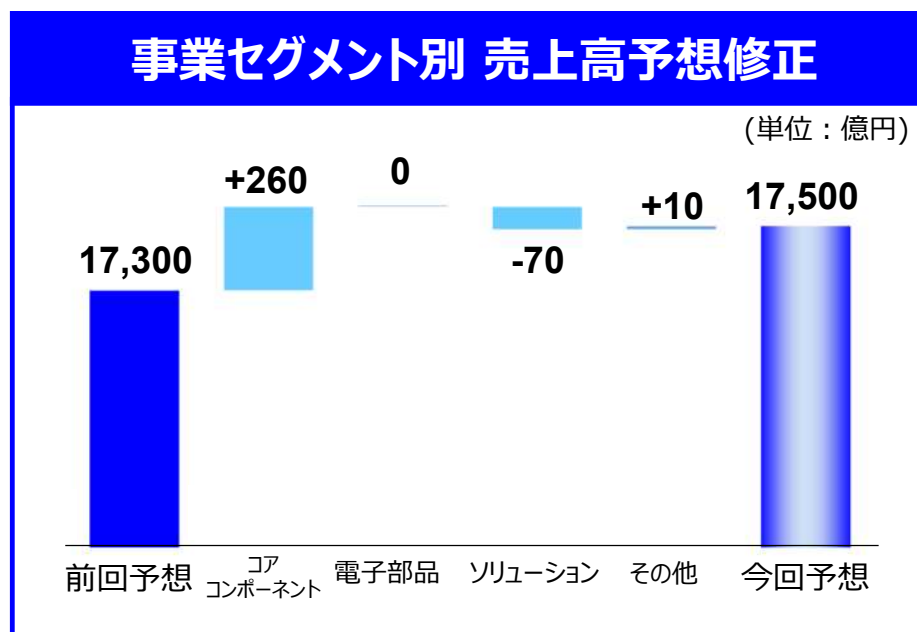
(ご参考) 2022年3月期 為替変動による影響額 (前期比)：売上高 約+390億円、税引前利益 約+150億円

注：2022年3月期の基本的EPSは2022年3月期上期の期中平均株式数を用いて算出しています。

2022年3月期通期 業績予想修正の要因

- + 5G関連部品等の戦略製品の需要が想定を上回って推移
- 半導体等の部材不足や価格の高騰等によるコスト増

不透明な事業環境は懸念されるものの、上期までの進捗や戦略製品の需要見通しを踏まえ修正



2022年3月期通期 事業セグメント別売上高予想 (単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期 予想				増減金額	
			前回予想(4月公表)		今回予想			
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	前期比	前回予想比
コアコンポーネント	424,669	27.8%	455,000	26.3%	481,000	27.5%	56,331	26,000
産業・車載用部品	135,884	8.9%	145,000	8.4%	163,000	9.3%	27,116	18,000
半導体関連部品	263,595	17.3%	280,000	16.2%	290,000	16.6%	26,405	10,000
その他	25,190	1.6%	30,000	1.7%	28,000	1.6%	2,810	-2,000
電子部品	273,002	17.9%	320,000	18.5%	320,000	18.3%	46,998	0
ソリューション	835,213	54.7%	957,000	55.3%	950,000	54.3%	114,787	-7,000
機械工具	193,066	12.6%	209,000	12.1%	225,000	12.9%	31,934	16,000
ドキュメントソリューション	316,226	20.7%	370,000	21.4%	360,000	20.6%	43,774	-10,000
コミュニケーション	232,739	15.2%	270,000	15.6%	265,000	15.1%	32,261	-5,000
その他	93,182	6.2%	108,000	6.2%	100,000	5.7%	6,818	-8,000
その他の事業	18,169	1.2%	28,000	1.6%	29,000	1.6%	10,831	1,000
調整及び消去	-24,156	-1.6%	-30,000	-1.7%	-30,000	-1.7%	-5,844	0
売上高	1,526,897	100.0%	1,730,000	100.0%	1,750,000	100.0%	223,103	20,000

2022年3月期通期 事業セグメント別利益予想

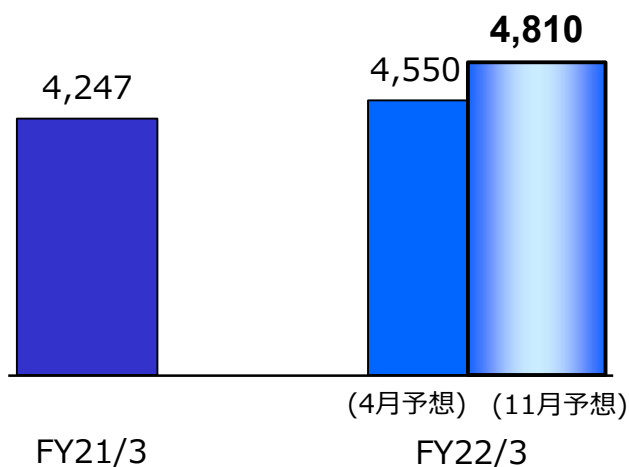
(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期 予想				増減金額	
			前回予想(4月公表)		今回予想			
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	売上高比	前期比	前回予想比
コアコンポーネント	30,549	7.2%	41,000	9.0%	55,000	11.4%	24,451	14,000
産業・車載用部品	4,241	3.1%	12,000	8.3%	20,000	12.3%	15,759	8,000
半導体関連部品	28,260	10.7%	29,000	10.4%	35,000	12.1%	6,740	6,000
その他	-1,952	—	0	0.0%	0	0.0%	1,952	0
電子部品	23,000	8.4%	40,000	12.5%	48,500	15.2%	25,500	8,500
ソリューション	37,506	4.5%	74,000	7.7%	73,000	7.7%	35,494	-1,000
機械工具	15,721	8.1%	22,000	10.5%	28,000	12.4%	12,279	6,000
ドキュメントソリューション	28,759	9.1%	42,000	11.4%	33,000	9.2%	4,241	-9,000
コミュニケーション	14,597	6.3%	12,000	4.4%	17,000	6.4%	2,403	5,000
その他	-21,571	—	-2,000	—	-5,000	—	16,571	-3,000
その他の事業	-3,102	—	-15,000	—	-13,000	—	-9,898	2,000
事業利益 計	87,953	5.8%	140,000	8.1%	163,500	9.3%	75,547	23,500
本社部門損益等	29,606	—	20,000	—	26,500	—	-3,106	6,500
税引前利益	117,559	7.7%	160,000	9.2%	190,000	10.9%	72,441	30,000

2022年3月期通期 事業セグメント別業績予想 (1) コアコンポーネント

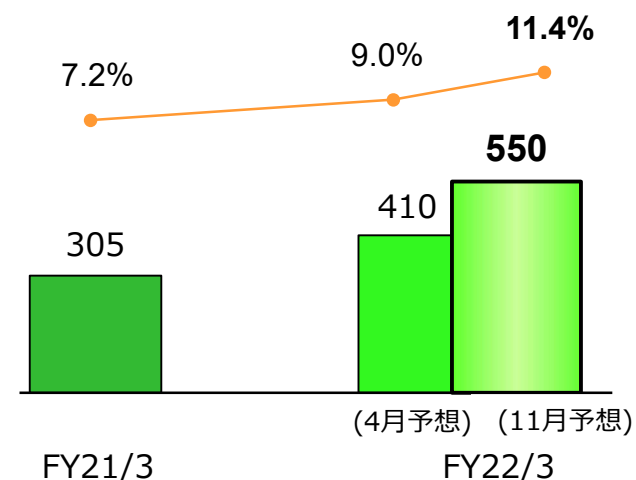
売上高

(単位：億円)



事業利益

(単位：億円)



主な増減要因

<4月予想比>

- 産業・車載用部品事業における半導体製造装置用ファインセラミック部品や、半導体関連部品事業の5G向けセラミックパッケージの需要増加

<FY21/3比>

- 同上

<4月予想比>

- 増収に伴い増益

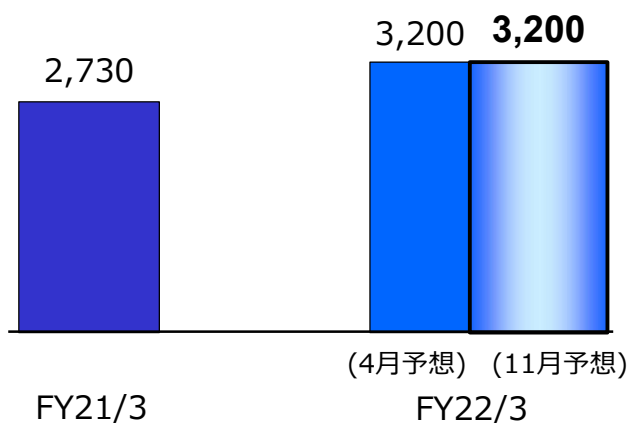
<FY21/3比>

- 同上

2022年3月期通期 事業セグメント別業績予想 (2) 電子部品

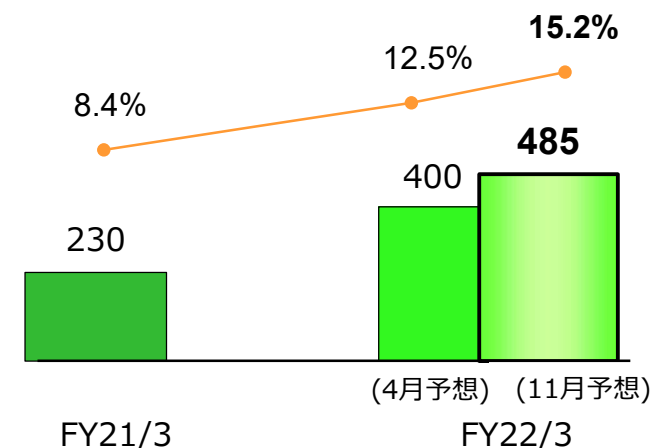
売上高

(単位：億円)



事業利益

(単位：億円)



主な増減要因

<4月予想比>

- 自動車関連及び通信市場見通しを踏まえ、期初予想を据え置き

<FY21/3比>

- 産業市場及び自動車関連市場向けの需要回復、並びに5G関連部品の需要増

<4月予想比>

- 主要製品の収益性の改善及び原価低減の進展により増益

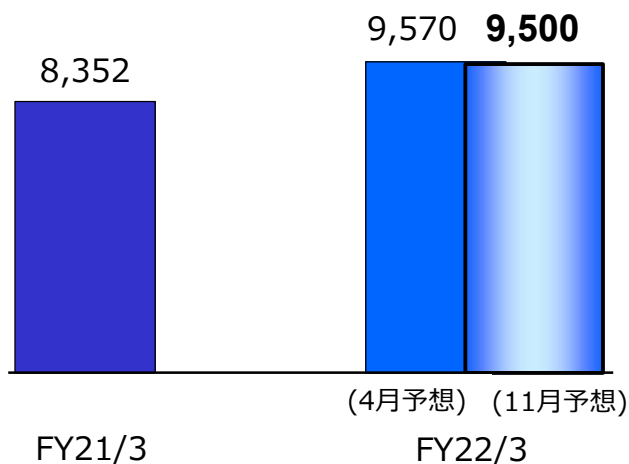
<FY21/3比>

- 増収及び収益性の向上により増益

2022年3月期通期 事業セグメント別業績予想 (3) ソリューション

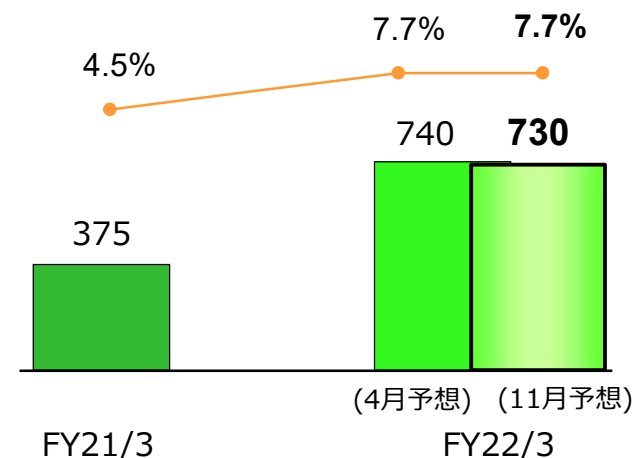
売上高

(単位：億円)



事業利益

(単位：億円)



主な増減要因

<4月予想比>

- 機械工具事業は空圧電動工具の需要増により増収
- ドキュメントソリューション事業は、サプライチェーンの混乱等の影響を主因に減収

<FY21/3比>

- ドキュメントソリューション事業等において、コロナ禍の影響を大きく受けた前期からの需要回復

<4月予想比>

- 減収により減益となるものの、原価低減の取り組みにより利益率は維持

<FY21/3比>

- 増収及び各事業での原価低減により増益

来期以降の成長に向けた取り組み（1）

電子部品セグメントにおける組織統合の本格推進

2021年10月

- AVX Corporationの社名変更
⇒KYOCERA AVX Components Corporationへ
- 米国・欧州での営業組織統合

2022年4月以降

- 日本・アジアでの営業組織統合
- 製造・開発部門の協業推進

総合電子部品メーカーとしてグローバル展開及び成長を加速



ACCELERATING INNOVATION



来期以降の成長に向けた取り組み (2)

半導体製造装置用ファインセラミック部品の増産投資

市場トレンド

1. 5GやDXの進展に伴う半導体需要の増加

中長期の半導体市場拡大が見込まれる

2. ニーズに合致したセラミックスの特性

高機能化ニーズの高まりに伴う半導体製造装置用部品のセラミック化の進展

プラズマ強化

高温化

高精度化

鹿児島国分工場に新建屋2棟を建設



完成予想図

投資総額：約110億円

稼働：2022年10月より順次生産開始予定

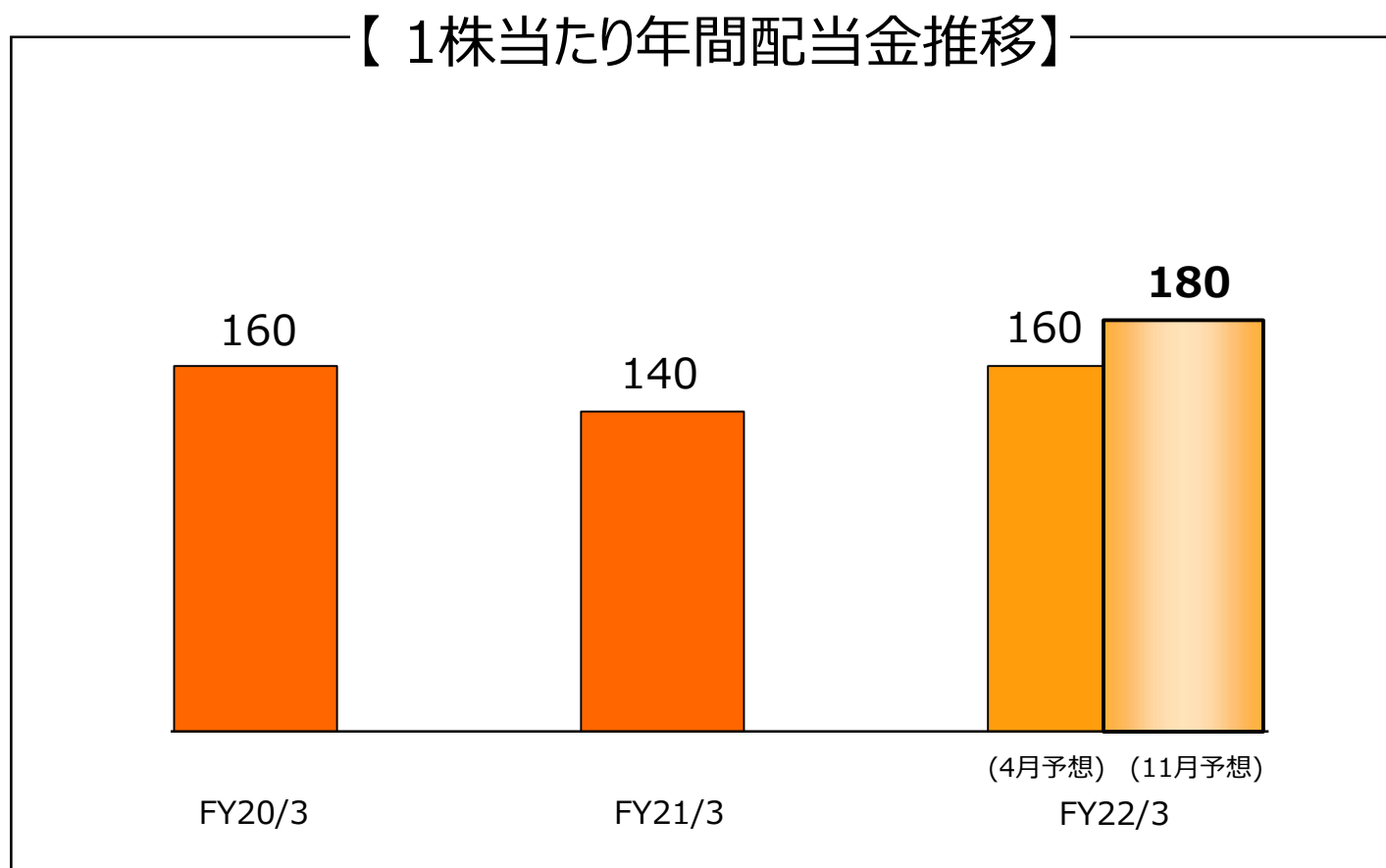
主な製品：半導体製造装置用
ファインセラミック部品

生産能力：**従来比約2倍***

*鹿児島国分工場での半導体製造装置用ファインセラミック部品の製造において

株主還元（1）配当金

FY22年間配当金予想：4月予想比20円増配



株主還元（２）自己株式の取得

目的

株主還元の強化並びに機動的な資本戦略の準備

（１）取得する株式の種類	普通株式
（２）取得する株式の総数	4,000,000株（上限） （発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合1.10%）
（３）株式の取得価額の総額	27,156,000,000円（上限）
（４）取得の方法	2021年11月1日の終値*6,789円で、2021年11月2日の東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）において買付け

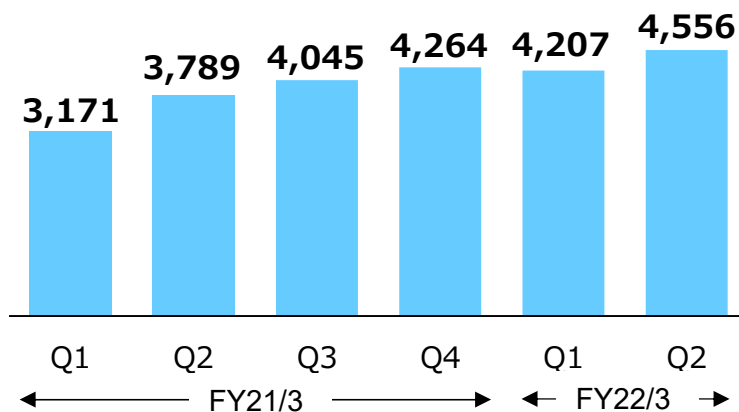
* 最終特別気配を含む

ご参考：四半期業績推移

四半期業績推移

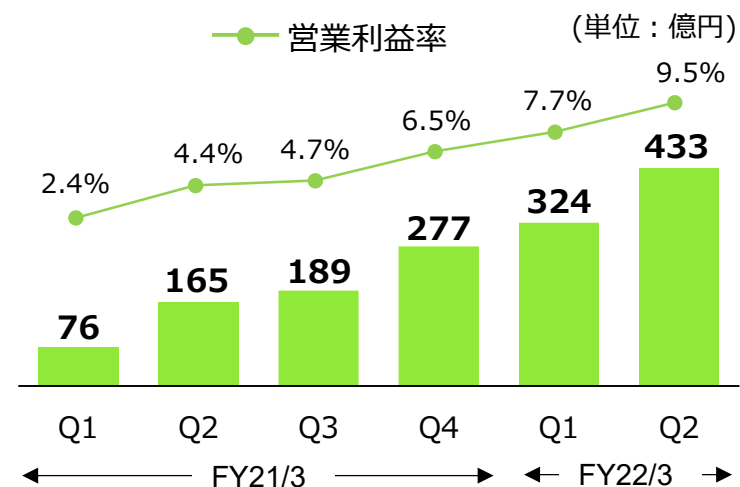
売上高

(単位：億円)



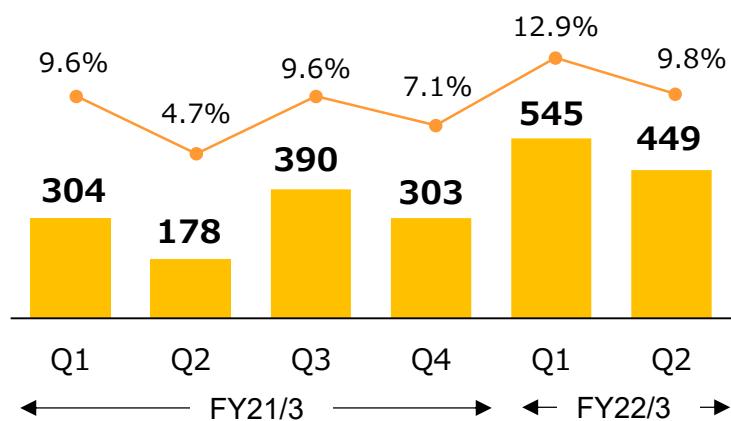
営業利益

(単位：億円)



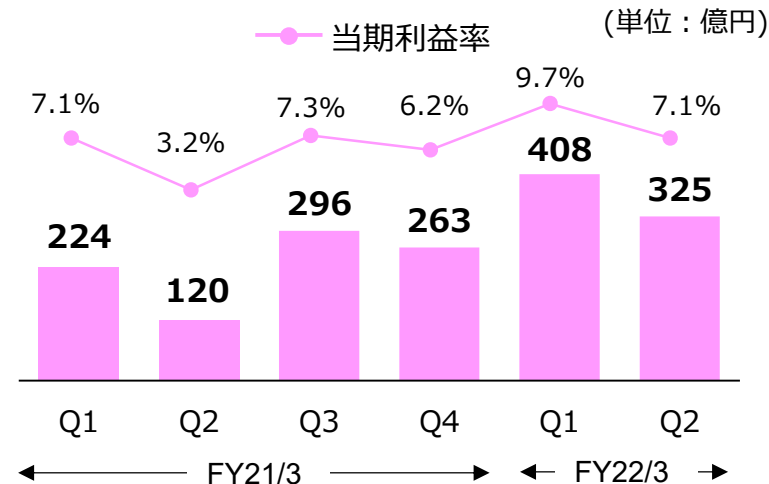
税引前利益

● 税引前利益率 (単位：億円)



当期利益

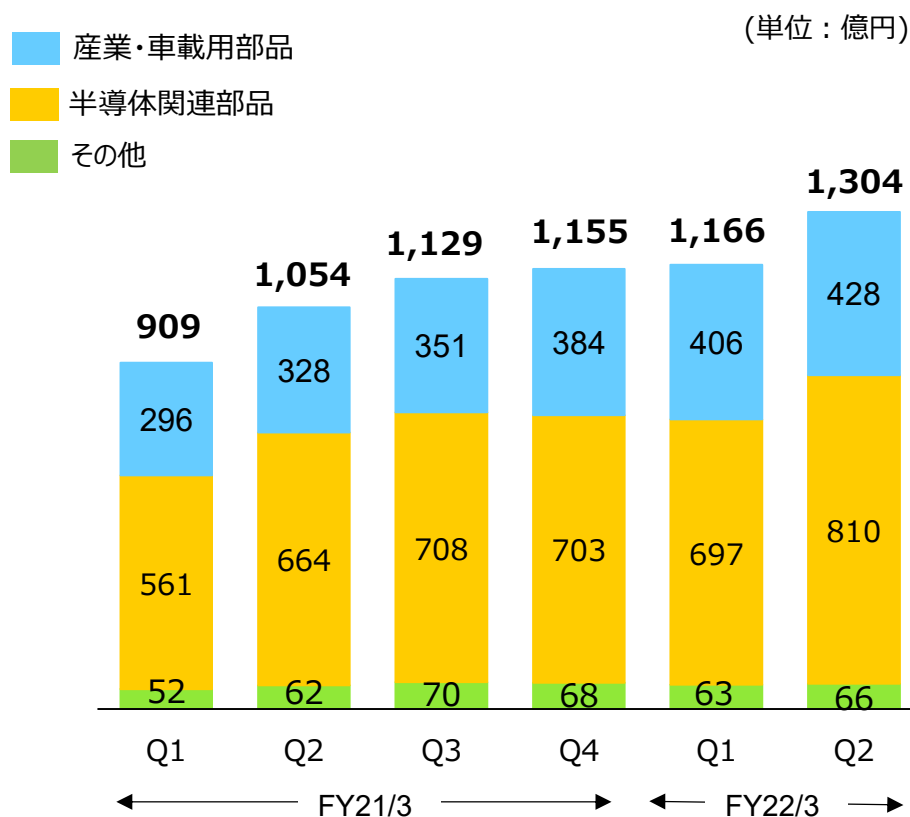
(単位：億円)



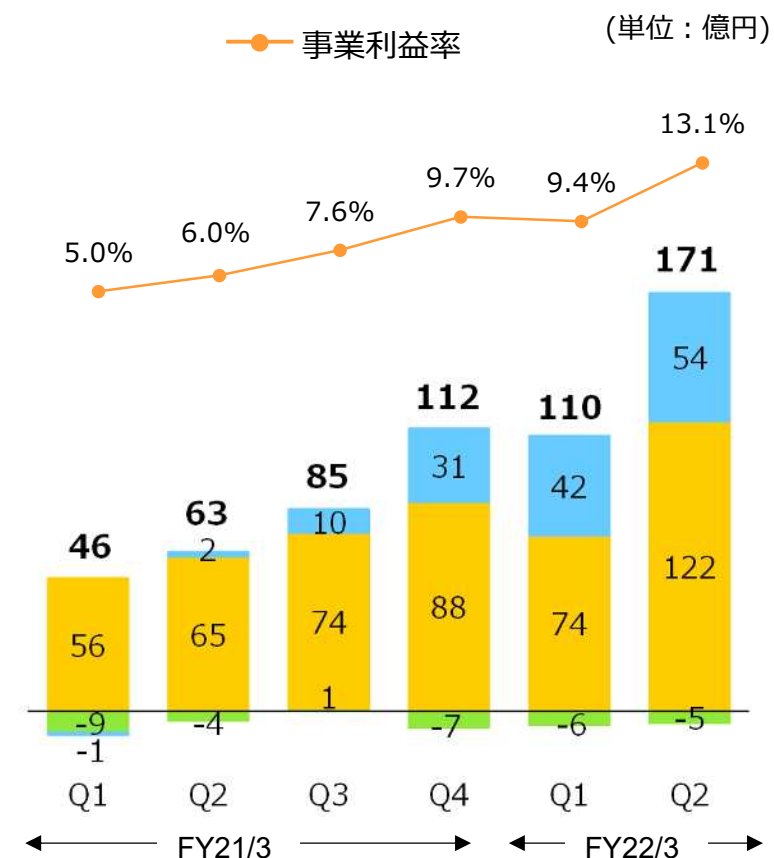
事業セグメント別 四半期業績推移

(1) コアコンポーネント

売上高



事業利益



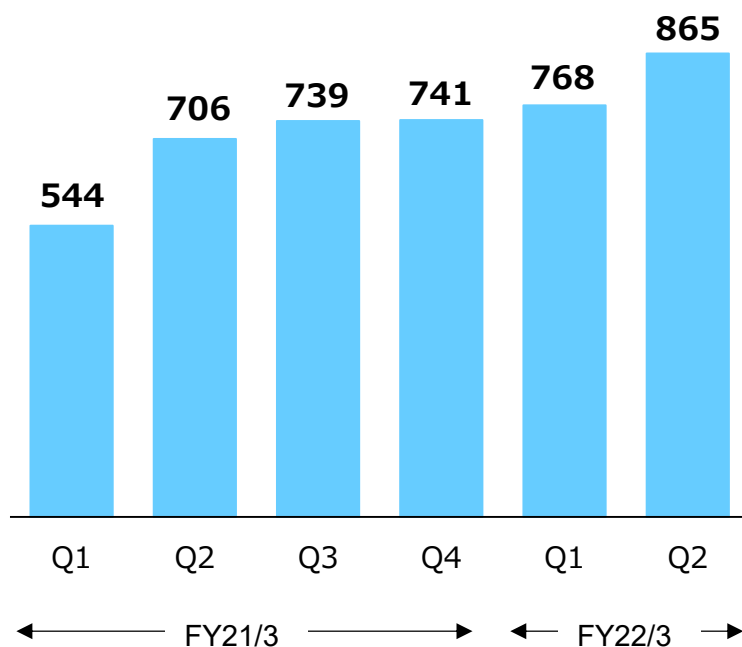
注：事業利益は各セグメントの税引前利益
事業利益率は百万円単位で算出

事業セグメント別 四半期業績推移

(2) 電子部品

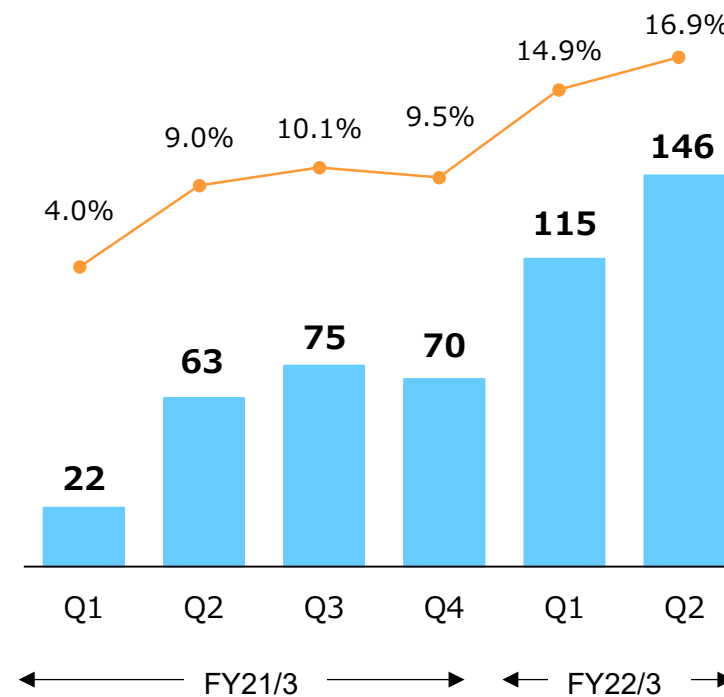
売上高

(単位：億円)



事業利益

● 事業利益率 (単位：億円)



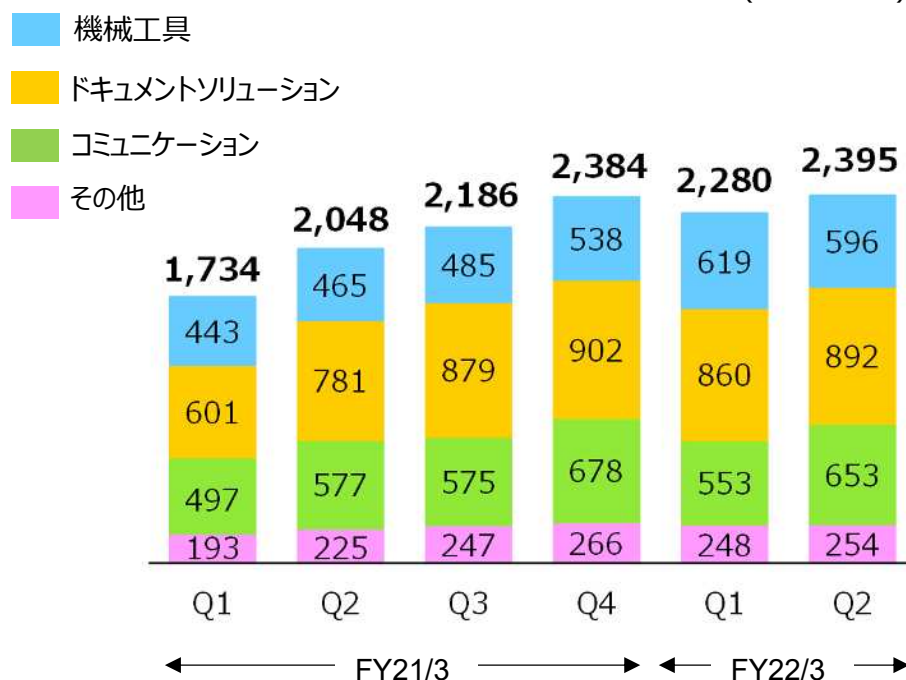
注：事業利益は各セグメントの税引前利益
事業利益率は百万円単位で算出

事業セグメント別 四半期業績推移

(3) ソリューション

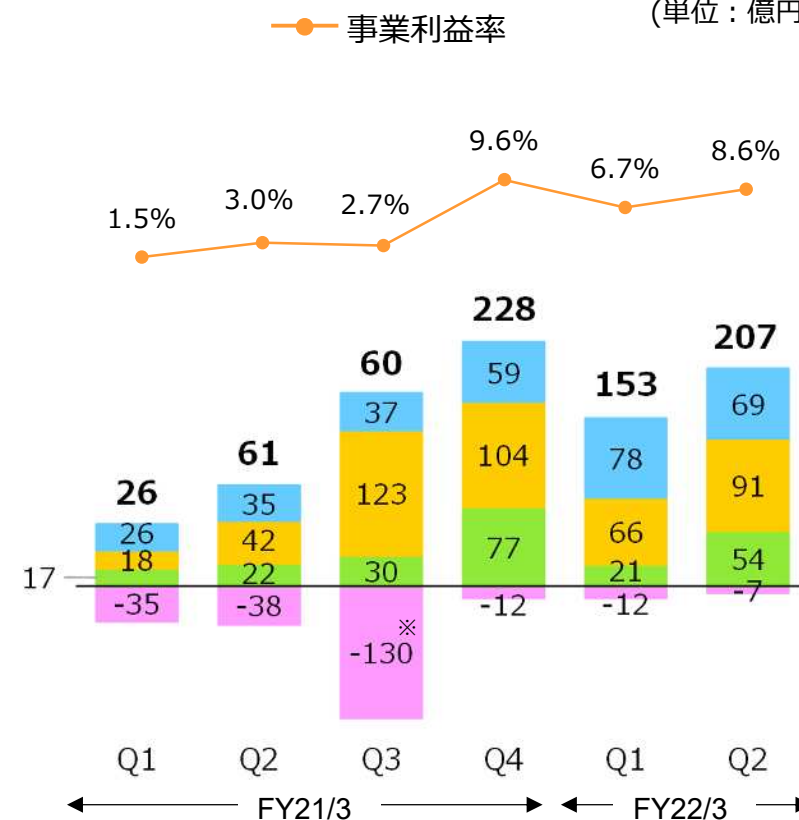
売上高

(単位：億円)



事業利益

(単位：億円)



注：事業利益は各セグメントの税引前利益
事業利益率は百万円単位で算出

※ スマートエナジー事業において、減損損失115億円を計上

将来の見通しに関する記述等について

この資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点で入手できる情報に鑑みて、当社が予想を行い、所信を表明したものであり、既知及び未知のリスク、不確実な要因及びその他の要因を含んでいます。これらのリスク、不確実な要因及びその他の要因は下記を含みますが、これらに限られるものではありません。

- (1) 日本及び世界経済の一般的な状況
- (2) 当社が事業や輸出を行う国における経済、政治、法律面の諸条件の想定外の変化
- (3) 為替レートの変動が当社の事業実績に及ぼす影響
- (4) 当社製品が直面する激しい競争による圧力
- (5) 当社の生産活動に用いられる原材料のサプライヤーの供給能力及びその価格の変動
- (6) 外部委託先や社内工程における製造の遅延又は不良の発生
- (7) 今後の取り組み又は現在進行中の研究開発が期待される成果を生まない事態
- (8) 買収した会社又は取得した資産から成果や事業機会が得られない事態
- (9) 優れた人材の確保が困難となる事態
- (10) サイバー攻撃等により当社の情報セキュリティが被害を受ける事態及びその復旧や維持に多額の費用が必要となるリスク
- (11) 当社の企業秘密及び特許を含む知的財産権の保護が不十分である事態
- (12) 当社製品の製造及び販売を続ける上で必要なライセンスにかかる費用
- (13) 既存の法規制又は新たな法規制への意図しない抵触
- (14) 環境規制の強化による環境に関わる賠償責任及び遵守義務の負担
- (15) 世界的な気候変動に関連する諸課題への対応遅れによるコスト増や企業ブランドの低下を招く事態
- (16) 疾病・感染症の発生・拡大、テロ行為、国際紛争やその他類似の事態が当社の市場及びサプライチェーンに及ぼす影響
- (17) 地震その他の自然災害によって当社の本社や主要な事業関連施設並びに当社のサプライヤーや顧客が被害を受ける事態
- (18) 売掛債権の信用リスク
- (19) 当社が保有する金融商品の価値の変動
- (20) 当社の有形固定資産、のれん並びに無形資産の減損処理
- (21) 繰延税金資産及び法人税等の不確実性
- (22) 会計基準の変更

上記のリスク、不確実な要因及びその他の要因により、当社の実際の業績、事業活動、展開又は財政状態は、将来の見通しに明示又は黙示される将来の業績、事業活動、展開又は財政状態と大きく異なる場合があります。当社は、この資料に含まれている将来の見通しについて、その内容を更新し公表する責任を負いません。

THE NEW VALUE FRONTIER



京セラ株式会社